

敬天新聞社

社主 白倉康夫 様

貴紙にて取り上げていただきました本学理学部前事務長渡辺政茂のパワーハラスメントについて、更なる補足を申し上げます。

渡辺は理学部事務長の前は青森県十和田市にある獣医学部の事務長でした。その獣医学部でも連日「何度も同じことを言わせるな、この大バカ野郎」「お前みたいな奴に給料を払っている大学はアホだ」「お前のバカさ加減は天下一品だ」「お前のせいで俺の出世が遅れるのはまっぴらごめんだ」「俺はお前をクビにしてやる」「事務長の俺がよければいいんだ、お前の考えなんてどうでもいいんだ」などと部下を公然と大声で執拗に怒鳴り散らし、気に入らない部下を無視し続けるものですから、これを目の当たりにしている職員はいつ自分が怒られるかと怯えて仕事に専念できない日々が続いていたとの話が口から口へと伝えられ、学内に広まっていました。職員の中には精神を病み、退職した者もいます。

このパワハラと甲乙付け難く問題なのが地元業者との癒着、公金の私的流用です。大学に出入りする建設業者、保険代理店、廃棄物処理業者などにリベートをたかり、毎晩業者の金で飲み歩き、週末は接待ゴルフ三昧だったことも皆知っています。また、大学が管理する公用タクシー券を私的に利用し、これが本部に察知されたときには、証拠を改ざんしたそうです。

執行部は渡辺の十和田での悪行を知っているにもかかわらず、平成 24 年 8 月に理学部事務長に来させたために社会的弱者である理学部障害者の人権が踏みにじられました。

今回、文科省からの問い合わせがなければ渡辺は更迭、左遷されることもなく、理学部でパワハラを続けていました。

パワハラの被害を受けた障害者は精神的に追い詰められ、退職を考えたこともあったと言っています。

これほど酷いパワハラがあり、前任地での地元業者との癒着があったにもかかわらず、懲戒処分にならず、嚴重注意、臨床研究機構へ左遷という生ぬるい措置をとった執行部は、管理能力が全くないと言えます。

貴紙は世の不条理と闘う世直し団体と皆頼りにしています。本学執行部は世の条理を知りません。是非とも世の条理を教えてやってください。

北里大学理学部職員一同